



第68回 日本医学検査学会

ランチョンセミナー13

検体検査の品質・精度の確保に関するあり方

～ 遺伝子関連検査を含めて ～

日時 **2019年 5月 19日 (日) 12:00～13:00**

会場 **下関市民会館 2F 中ホール**

本セミナーは整理券制です

※整理券の枚数には限りがございますので、あらかじめご了承ください。
※整理券は、**セミナー開始後5分を過ぎると無効**となります。

整理券配布場所 **下関市民会館 2F** 配布時間 **8:00～11:00** (なくなり次第終了)

座長 **矢富 裕 先生**

東京大学 大学院医学系研究科 内科学専攻 病態診断医学講座 臨床病態検査医学分野 教授

演者 **横田 浩充 先生**

東邦大学理学部教育開発センター 臨床検査技師課程
東邦大学大学院理学研究科生物学専攻 病態検査学研究室 教授

2018年12月1日、検体検査の品質・精度の確保に関する医療法等についての一部改正が施行されました。これにより医療機関等が実施する検体検査について、その精度の確保のために設けるべき基準が新設されました。1.精度確保に係る責任者の配置(医師または臨床検査技師)、2.各種標準作業書・日誌・台帳の作成、3.内部精度管理の実施、外部精度管理調査の受検および適切な研修の実施等であります。臨床検査部門はこの新たな時代の要求に対応して行かなければなりません。この改正の契機は、ゲノム情報を用いた医療等の実用化推進タスクフォースでの議論の結果でありました。ゲノム情報に基づく効果的な疾患の診断には遺伝子関連検査が行われています。遺伝子関連検査は感染症の診断、病型診断、治療法の決定、治療効果確認、個人の遺伝情報を明らかにする等、患者の診療に直接関与する情報を提供しています。このことから高い品質と精度の確保が要求される訳です。本講ではISO15189の要求事項から、検体検査の品質・精度の確保に関するあり方について、その必要事項を確認して行きたいと思います。

共催：第68回 日本医学検査学会

株式会社CGI

サーモフィッシャーダイアグノスティックス株式会社

株式会社 CGI

ThermoFisher
SCIENTIFIC

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

共催：第68回 日本医学検査学会

株式会社CGI

サーモフィッシャーダイアグノスティックス株式会社

ThermoFisher
SCIENTIFIC